

ねえ、知ってる？

マルヒ
秘

文学 エピソード

「文学作品」は、言葉づかいや文体が難しくよくわからない！
内容も今の小説と違って、派手なアクションや軽快なギャグがないからつまらない！
そんな「文学嫌い」さんへ、とっておきの「**文学秘エピソード**」を教えちゃいます！授業で習った名作も、教科書に載っているのはほんの一部だけ。裏話を知ってからもう一度全文を読み返してみると、今までつまらないと思っていた文学作品の面白さに気づけるかも知れませんよ！

森 鷗外(1862～1922年)
島根県津和野町の医者の子に生まれ、1884～88年まで軍医としてドイツに留学。ヨーロッパの文学や哲学に影響を受け、帰国後は軍医として働きながら翻訳や評論、小説の活動にあたりました。



代表作『舞姫』



『阿部一族・舞姫』
森鷗外／著 新潮社(新潮文庫刊)
幼い頃から成績優秀だった太田豊太郎は、ドイツへの留学を果たし出世の道をつき進むが、留学先で出会ったエリスとの恋でその道を失いかけてしまう。なんとか友人の紹介で得た仕事に励むうちに、豊太郎はロシアへ渡ることを命じられた。しかしそのとき、エリスは妊娠していて……。

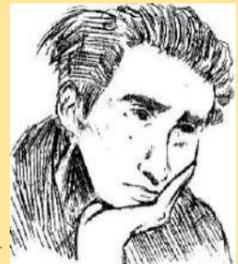
913.6
モリ

「エリス」は実在した！？

『舞姫』の悲劇のヒロイン・エリス。実は、鷗外が留学中に付き合っていた女性が、帰国した彼を追いかけはるばる日本に渡ってきたという記録が残っています。この女性は鷗外の家族に説得されてドイツに帰っていましたが、『舞姫』はこの人物との出来事を元に書かれたと言われていいます。恋人を追って海を渡るなんて、ロマンチックですね。



太宰 治(1909～1948年)
青森県北津軽の名家の六男。作家活動の他に政治活動なども行いました。1948年に東京都三鷹市で入水自殺。遺体の発見された6月19日は「桜桃忌」と呼ばれ、今でも多くの人が墓参りに訪れます。



代表作『走れメロス』



『走れメロス』
太宰治／著 講談社
羊飼いのメロスは、妹の結婚式のために買い物に出た街で、人を信じられず誰も彼も処刑をする暴君の話に耳にする。暴君を倒そうとしたメロスは処刑されることになるが、妹の結婚式に出るために、親友を身代わりに3日間の猶予をもらう。友の信頼に応えるため、メロスは走る！

ダ

帰ってこなかった「メロス」！

熱海で友人と飲み歩いていた太宰は、所持金を使い果たしてしまいます。金をつくってくるから、と太宰はひとりで東京へと帰りましたが、いくら待っても彼は戻ってきません。友人が宿の主人に事情を話して東京へ戻ってみると、なんと太宰は師匠の家で将棋を指していたのです！『走れメロス』はこの出来事をもとに書かれたのですが、物語のメロスは帰ってくるのでしょうか……？



フランツ・カフカ(1883～1924年)
チェコのプラハ生まれのユダヤ人。6歳でドイツ語の小学校に入学し、10歳ごろから創作を始めました。労働者災害保険局に勤めながらたくさんの作品を執筆しますが、未完成のものも多く残っています。



代表作『変身』



『カフカ』
多和田葉子／編 集英社
セールスマンのグレゴール・ザムザは、ある朝目を覚ますと自分が奇妙な虫になっていることに気がついた。出勤時間を過ぎても部屋から出られずにいると、会社の上司がやってきてしまう。なんとか部屋から姿を現すが、上司は驚いて逃げ出し、母は腰を抜き、父にはステッキで叩かれて……。

943.7

サラリーマン生活から生まれた名作

カフカは同年代に活躍した作家としては珍しく、会社に勤めながら執筆活動をしていました。急速に変化する近代企業の内側を知っていたことは、カフカの作風にも大きく影響しています。『変身』はユーモラスな表現が多く、カフカ自身が友人たちに朗読したときもみんな笑い転げたそうですが、突然働けなくなってしまった人の生活という視点で読んでみると、ちょっと笑えないリアリティがあるようにも思えますね。



紫式部(970～1019年※一説による)
藤原為時の娘。夫・宣孝の死を受けて物語を書き始め、それが藤原道長の目にとまって一条天皇の中宮・彰子に仕えることとなります。物語『源氏物語』の他に、随筆『紫式部日記』や『紫式部集』なども残しています。



代表作『源氏物語』



『絵で読む日本の古典2源氏物語』
田近洵一／監修 ポプラ社
稀代の貴公子の一生を描いた物語。桐壺帝と桐壺の更衣の間に生まれた美しい皇子は、占い師の予言をうけて天皇家から臣籍におろされ「源氏」という姓をたまわる。そうして「光源氏」と呼ばれるようになった彼は、様々な女性との恋愛を繰り返しながら栄華を極めていく。しかし一方で、どうしても満たされない思いもあった。

913

こっそりとちりばめられた漢文の知識

紫式部は、弟が漢文の朗読をするのを聞いて漢学の知識を身につけました。しかし、平安時代の学問は男性のものであり、女性が漢文を読むなどもってのほかとされていました。紫式部は普段、漢学が出来る事を隠していましたが、『源氏物語』には中国の伝説や漢文の知識をふまえた文章が見え隠れしています。紫式部がどんな風に漢学素養を隠したのか、探しながら読んでみるのはいかがでしょうか？



武者小路 実篤(1885～1976年)
東京都千代田区生まれ。子爵である父・武者小路実世の第8子。小説・戯曲・詩など長年にわたり執筆活動を行い、友人の志賀直哉たちと“白樺”を創刊しました。



代表作『友情』



『友情』
武者小路実篤／著 新潮社(新潮文庫刊)
駆け出しの若き脚本家・野島は友人の妹・杉子に恋をした。杉子と結ばれたいが、純粋で美しい彼女に思いを寄せる男は多く、野島は焦る。そこで親しい友人の大宮に相談すると、彼は協力すると言ってくれた。ところが杉子には思い人がいて、その相手が大宮だと知った野島は……。

ム

ブームは時間差？

武者小路実篤が『友情』を書いたのは、34歳の時でした。発表当初はあまりこれといった反応はなかったようです。しかし、それから十数年の歳月を経て、人気に火が付き、雑誌、あるいは新聞で女学生の愛読書を調べると、どうやら『友情』が二位ということでした。そのことを作家本人が耳にしたとき、最初に抱いた感想はどのようなものだったのでしょうか。

